

**米国国立公文書館所蔵 国務省セントラル・ファイル
ポーランド関係文書 1945年-1963年**

Poland: Records of the U.S. Department of State, 1945-1963

1945年、ナチス・ドイツが降伏すると、ポーランドの体制を巡り、自由主義者と共産主義者の間でせめぎ合いが発生しますが、ソ連の影響力の下に、共産主義者が勢力を伸張し、1952年ポーランド統一労働者党の単独独裁体制が成立します。1956年のスターリン批判後は、ウワディスワフ・ゴムウカ第一書記の下で非スターリン化の改革を進めます。

本コレクションは、米国国立公文書館が所蔵する国務省一般記録群(RG59)のセントラル・ファイルの中から、1945年から1963年までの米国国務省のポーランド関係文書を収録します。この時代にポーランドに駐在した大使は、アーサー・ブリス・レイン、スタントン・グリフィス、ワルデマー・ゴールマン、ジョゼフ・フラック、ジョゼフ・ジェイコブズ、ジェイコブ・ビーム、ジョン・カボットが大使を歴任しました。本コレクションには大使の他、公使、領事、書記官ら、ポーランド駐在の米国外交官と国務省本省との往復文書を収録します。

米国国務省の外交文書は、世界各地に駐在した米国の大使、公使、領事と国務省本省との間で交わされた往復文書です。外交官の重要な任務は駐在地の国内情勢を国務省本省に報告することです。外交官の報告は、政治や軍事関係の出来事の報告、社会経済関係の統計データ、当地の政府高官や政治指導者との会談の議事録、法律関係の記録、大使、公使、領事が送受信した重要な書簡や電信の写し、雑誌や新聞記事の切り抜きや翻訳、当地政府のハイレベルの文書等で構成され、アメリカと駐在国の外交関係の形成過程を明らかにする貴重な史料であることはもちろん、政治、政党、人権、行政、政情不安、財政、金融、貿易、産業、天然資源、労働、住宅から教育、宗教、文化、治安、犯罪、公衆衛生、公共事業、国防、外交、戦争まで、駐在国の内政事情全般を時系列に、主題別に、包括的に記録したものであり、外交官の文書が基本的に自国の国益というフィルターを通して出来事が選別されるということでは説明しきれないほど広範な領域をカバーし、駐在国の政治史、経済史、社会史を研究する上で欠かすことのできない史料でもあります。加えて、第三の立場から記録したものとしても第一級の史料価値を持っています。

収録文書はすべて、米国国立公文書館のファイリング・システムに準じた文書番号が付与されています。国務省一般記録群(RG59)は、1910年から1963年まで十進分類法に則ったファイリング・システムによって整理されていたため、デシマル・ファイル(Decimal File)と呼ばれています。文書番号は、大分類番号(Class Number) + 国番号(Country Number) + 小分類番号(Subtopic Number)で構成されています。以下は、本コレクションに収録されている文書の大分類番号と国番号です(一部)。文書番号を検索語にして検索すると、当該番号が振られた文書のみ引き出すことができます。

< 1945—1950 >

860C...: ポーランド内政事情

< 1950—1963 >

748...: ポーランド国内政治・国防

948...: ポーランド通信・運輸・科学

848...: ポーランド国内経済・産業・社会



本コレクションは、Scholarly Resources のマイクロフィルム”*Records of the Department of State Relating to the Internal Affairs of Poland, 1945-1949; 1950-1954; 1955-1959; 1960-1963*”を電子化したものです。